

よくわかるカビの知識

編集 株式会社 テクノスナカタ

Q&A集

Q1 カビのふるさとはどこ？

木の葉などが落ちるところや地中約10Cm以内で発生します。

Q1 カビの発生の多い時期は？

温度の高い6月～7月にピークを迎えます。外気と比べると室内は約8倍、浴室では約20倍もの胞子が飛び交います。

Q3 カビと細菌（バクテリア）は同じ？

異なります。カビの方がより人間のDNAに近く、細菌と比べ阻止できにくくなります。

Q4 カビの生息に必要な条件は？

温度 湿度 酸素 有機物 水素イオン の5つです。温度で20°C、**湿度は60%を超えるとカビの発生が急増します。**有機物では食品から接着剤に至るまで幅広く養分とします。

Q5 生命力の強さを誇るカビに弱点は？

太陽から発する紫外線に弱く、また50°C以上の高温では繁殖ができません。

Q6 木材のカビとは？（ピアノに関わります）

20°C～30°Cで関係湿度90%としても、木材の含水率（単位重量あたりの水を含む割合）は22%にすぎません。因みに木材が湿気（水蒸気）により飽和した場合の含水率は約30%です。

（※ これを纖維飽和点と呼びます）

これより、日本の気候において屋内に設置する木材が湿気により飽和点に達することはありません。

従って木部にカビが繁殖した場合の原因は、結露水などの外部から侵入してきた水分が影響するものと考えます。

Q7 カビの対策は？

カビは高温多湿の時期に発生しやすく、繁殖条件は**温度、湿度、栄養**の3つに支配されます。

従ってカビ対策としては湿度管理と清掃に重点をおきます。湿度管理では、空調、除湿および適度な換気により湿度を上昇させないことと、洗濯物の室内干しやガス・石油ストーブの使用など余分な水分を室内に放出し続けること、などが大切です。どうしても湿度管理できにくい場合は、市販のカビ取り剤および防止剤を使用すると数ヶ月間は有効です。また押入れやタンス、ピアノなどの仕切りがある場所では空気が入れ替わりにくくこもりやすい場所といえます。そのため周囲より**温度が低く湿度が高くなる傾向**にあるので乾燥剤の使用が有効になります。

Q8 カビ退治の方法

市販のカビ取り剤を使用説明書のとおり塗布し、しっかり雑巾で拭き取ります。また、薬局で販売のある消毒用エタノールをブラシなどでこすりながら塗布するとがんこなカビも再発生しにくくなります。

しかし木部に発生したカビは表面処理した後も木部の内部に胞子が残る場合があり、条件次第では再び繁殖することがあります。

